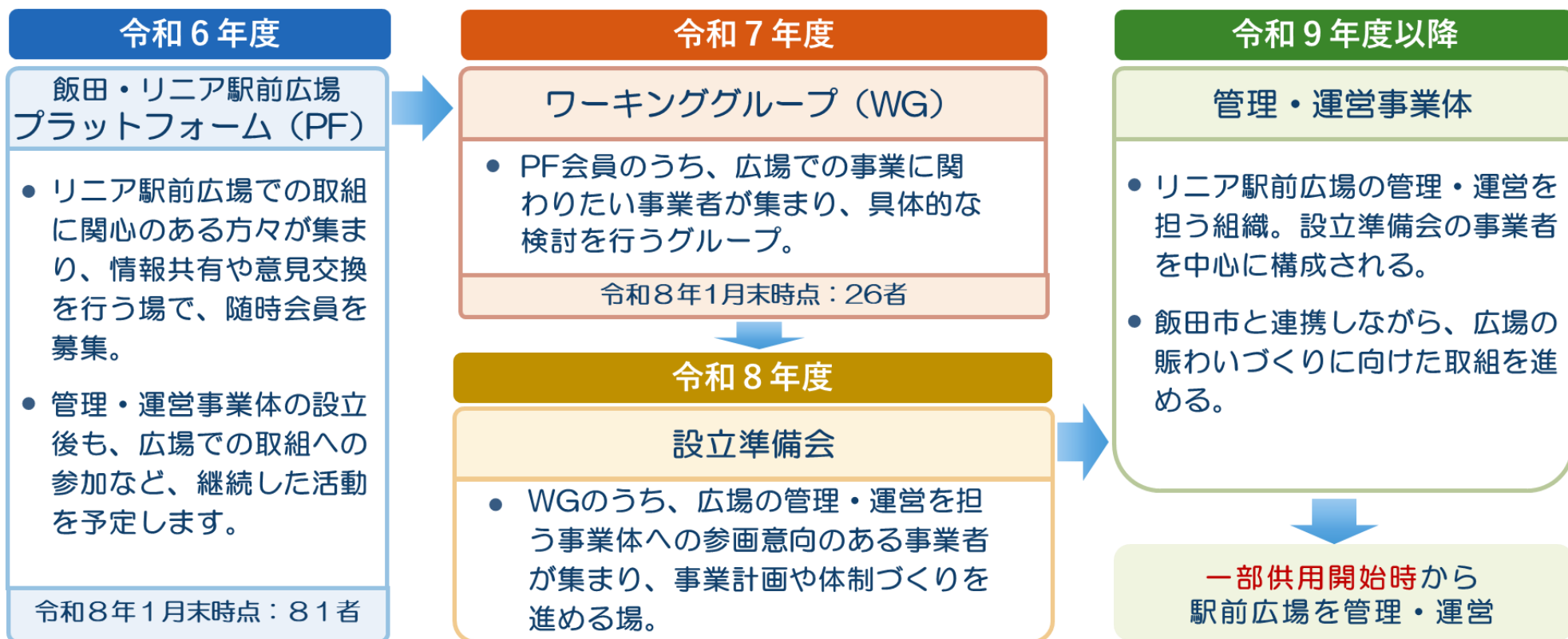


リニア駅前広場の 管理・運営事業者の組成に向けて

■リニア駅前広場の活用検討について

リニア駅前広場を一部供用開始時から活用していくため、運営の中心となる「管理・運営事業体」の設立に向けた準備を進めます。

管理・運営事業体 設立までの流れ（概要）



2.ワーキンググループ（WG）の概要について

2025年6月に実施した管理・運営事業体への参画・協力希望に関する事業者アンケートの回答等を基に、各事業者の管理・運営事業体への関わり方の希望・想定を踏まえ、3つのWGを設置している

協議の場の概要

- 管理・運営事業体の組成に向けて、管理・運営事業体への参画を希望するプラットフォーム会員間で協議を実施する

協議の場の概要

位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理・運営事業体への参画を希望する事業者等によって構成される、特に飯田・リニア駅内での管理・運営事業体の設立・運営を中心に議論するプラットフォームに内包された組織 ● 分類別に複数WGは設置される
条件	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート(2025年6月)にて、現時点で管理・運営事業体への参画・協力希望を有していることを示す
開催方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 飯田市内外の事業者等が参加する可能性を踏まえてWeb会議（Teams等）を用いて実施する
議論対象	<ul style="list-style-type: none"> ● リニア開業を見据えつつ目前に迫った一部供用開始時点の管理・運営事業体の設立・運営に関わる組織構造(出資比率など)や、管理・運営事業体を実施する事業、飯田市含む各ステークホルダーの関与の在り方等を中心とする
進行方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 現時点の想定では座長は設けず、事務局より各WGにファシリテーターを派遣のうえ協議を実施する

ワーキンググループ（WG）の種類

- アンケート(2025年6月)にて示された現時点の希望や参画イメージを踏まえて、3種類のWGに参加希望者を振り分けて議論を実施する

WG名称	概要
中核推進WG	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業の方向性や全体経営に関与し、事業を牽引する管理・運営事業体の経営を担う候補のメンバーを集めたWG
個別事業WG	<ul style="list-style-type: none"> ● 自身の強みを活かし、管理・運営事業体を実施する個別事業の企画・運営を担う実働候補のメンバーを集めたWG ※個人事業主や地域住民も参加可
協力支援WG	<ul style="list-style-type: none"> ● 出資・商品提供・情報連携などを通じて、周辺から管理・運営事業体の事業を支援する応援候補のメンバーを集めたWG

3.ワーキンググループ（WG）における議論の対象について

WGにおいては、リニア開業延期によって駅前広場の一部供用期間が長期化することを踏まえ、将来的な全面供用を見据えながら、特に一部供用期間に焦点を当てた議論を進めている

駅前広場の段階的な供用

WGにおける主な検討対象

2028年度中～ リニア駅前広場の一部供用開始

飯田・リニア駅前広場の一部供用期間

- 広場の利用者：地元の方々が中心
 - 広場の利用可能範囲：一部活用できる
- 全面供用を見据え、小規模・セットライトな事業/取組みを実験的に行い、地元中心の賑わい創出を目指す



リニア開業

飯田・リニア駅前広場の全面供用期間

- 広場の利用者：地元の方々 + リニア乗降客
 - 広場の利用可能範囲：高架下含めて全面活用できる
- 様々な事業/取組みを行い、管理・運営事業体の自立運営を目指す

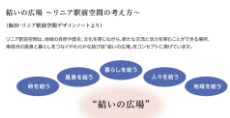


4.管理・運営事業体の理念・基本方針について

飯田・リニアデザインノートなど「大切にしていきたい視点」を前提に、中核推進WGの議論を踏まえて最終案としてとりまとめている。管理・運営事業体は本理念・基本方針に沿った事業を実施する想定である

大切にしていきたい視点

飯田・リニア駅前空間デザインノートの考え方

目指す姿	● 信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口
整備コンセプト	● 機能的コンパクトな駅空間－高度なトランジットハブの形成によりスムーズな乗換えを実現 ● 自然との調和を目指した駅空間－豊かな自然環境に配慮し環境モデル都市飯田を実現
設計方針	● アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間 ● 人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間 ● 住民や来訪者の居場所となる駅前空間 ● 時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間 ● 伊那谷の風景の魅力を引出す駅前空間
リニア駅前空間の考え方	● “結いの広場” - 時を結う、風景を結う、暮らしを結う、人を結う、地域を結う <small>結いの広場 ～リニア駅前空間の考え方～ (飯田・リニア駅前空間デザインノートより) ①「時を結う」 地域の歴史や文化、生活を繋ぎ合わせ、駅を起点とした生活圏の形成に貢献する。 ②「風景を結う」 豊かな自然環境を駅空間に引き出し、地域の魅力を最大限に引き出す。 ③「暮らしを結う」 駅周辺を核とした生活圏の形成に貢献する。 ④「人を結う」 駅周辺を核とした生活圏の形成に貢献する。 ⑤「地域を結う」 駅周辺を核とした生活圏の形成に貢献する。</small> 

プラットフォームで大切にしている3つの視点

- ① 駅前広場の賑わいの創出
- ② 地域経済の好循環
- ③ まち全体を見ながら駅前広場が持つべき機能

飯田・リニア駅前広場を核としてまちの付加価値が上がっていくという視点

管理・運営事業体の理念・基本方針(案)

理念 Vision	● 飯田・リニア駅を核としたひと・まちの賑わいの創出と波及 ● 信州・伊那谷らしさの体現による地域のブランド価値向上 ● 可変性と地域経済循環への配慮
賑わい・憩い・学びの創出	● 開業前は信州を中心としたひとびとの賑わい・憩い・学びの場を形成し開業後はリニア利用者を含めた賑わい・憩い・学びを創出する ● 開業前からインバウンド等の県外からの来訪を意識した仕組みづくりを進める
持続可能性の確保	● 事業の経済的な持続可能性を追求するだけでなく、得た収益を地域（住民・企業）に還元する施策に活用することで、社会的な持続可能性を維持する
自然との調和	● 景観への配慮、グリーンインフラや再生可能エネルギーの利活用などを通じ、環境への配慮・自然との共生を図る
文化と先進性の融合	● 地場産品・伝統芸能等の地域文化を活かし、身近な「日本初・世界初(No.1)」を再発見するとともに、先進的・独創的な取組を積極的に進めてその実現を目指す
共創・協調	● まち全体を見ながら飯田・リニア駅が持つべき機能を考え、駅前広場周辺の既存事業と共創・協調する関係を構築を目指す
地域資源の最大活用・波及効果	● 飯田、信州・伊那谷さらには長野に有する資源を効果的に活用し、広域的な波及効果の創出を目指す

理念 : 長期的な視点で変えずに守っていくべきもの

基本方針 : 管理・運営事業体を取り巻く環境の変化に応じて中期的に見直すもの。項目間に優先順位は無い

5. 設立準備会について

管理・運営事業体設立に向けた共同検討の枠組として、中核推進WG参加者を中心に「共同検討に係る協定書」を交わした事業者による「設立準備会」を2026年3月に設置。今後準備会の議論を踏まえ入っていただく必要があると思われる事業者は追加的に参加していく ※個別事業WG・協力支援WGは継続運営する

設立準備会の概要

- **締結時期**

- 2026年3月

- **定義**

- 管理・運営事業体（仮称）の設立に向け、設立時に管理・運営事業体の経営の中核を担うことを視野に入れる事業者が、協定書への記名押印をもって参加する会議体

- **参加メンバー**

- 設立準備会参加事業者
 - 中核推進WG参加者のうち協定書への署名に合意した事業者
 - 今後設立準備会における議論を踏まえて必要と判断された事業者
- 飯田市

- **主な議論内容**

- 管理・運営事業体の事業内容
- 経営体制
- スケジュール
- 収益性を確保しつつ地域に貢献していくか等の方策 等

- **会議頻度、場所**

- 1回/月程度、現地・Web

6.今年度の進め方について

